

シベリア鉄道を釜山まで

ロシア・韓国首脳会談で文氏

国際アナリスト

甲斐正史

シベリア鉄道を韓国釜山までつなげようというとてもないユメのような話が、夢ではなく、現実に具体化が進んでいる。

今年6月、モスクワを訪問した韓国の文在寅大統領がロシアのプーチン大統領と会談、朝鮮半島とロシアの鉄道連結、半島を縦断する天然ガスのパイプライン敷設の構想を話し合ったという。

とくに注目されたのは、文大統領が北朝鮮との経済協力協議の中でシベリア鉄道を韓国まで連結する構想を披露したことだ。

文氏は「シベリア鉄道が私の育った朝鮮半島の南端、釜山までつながることを期待している」とロシア下院での演説で語ったという。

直後のロシアのメディアとのインタビューでも「鉄道敷設に伴い北朝鮮や韓国、日本まで天然ガスや電力が



供給されれば共同繁栄を促進する道になる」と述べた。

さらに南北の共存共栄を目指す「朝鮮半島新経済地図」構想を掲げ、鉄道がロシアや中国との連結が企業の柱となると強調。これに対し

てプーチン大統領も新東方政策のもと極東地域の開発を進めるロシアとしても歓迎したいとの意向を示したという。

旧東側諸国を中心とした「鉄道国際協力機構」への韓国の加盟も北朝鮮が賛同を示したことで決定、机上ではシベリア鉄道の半島縦断への条件が整うことになった。

プーチン大統領も歓迎？ 日本は現時点で静観の態度

北朝鮮問題ではロシアの出遅れ感が目立っており、プーチン政権にすれば半島の鉄道縦断事業の具体化を急ぎ、存在感を見せたいという本心も伝わってくる。

シベリア鉄道はロシアの首都モスクワから東部のウラジオストクまでの全長9297km。「ロシア号」はモスクワのヤロスラフスキー駅を出発、

ウラジオストク駅まで7日間をかけて走破する。

文氏の構想ではシベリア鉄道の半島コースはバロフスクから南下、北朝鮮の羅津—ラジン鏡城—キョンソン元山—ウイサン高城—ゴッソ東海—ボグ甫項—釜山の日本海沿いを。釜山から先の構想は述べられていないが、釜山で折り返し、江原からソウル—ソウル平壤を経由する文字通り半島縦断鉄道になる。

そこで日本との関わりだが、現在釜山は日本から高速フェリーなど海上交通はまさに網の目。釜山経由でシベリア鉄道へとなると利便性はすこぶる高い。

このシベリア鉄道の半島縦断について経産省サイドは「文大統領の構想は聞き及んでいるが、具体的な計画は全く不明。遠大な話」と計画遂行には程遠い、まさに夢物語といったところだ。

遠大なユメ物語り 多すぎる障害とリスク

シベリア鉄道が半島を通るとなるとまず北朝鮮の劣悪な鉄道網の再整備という難題が横たわる。

金正恩労働党委員長も今年4月の南北首脳会談で韓国の鉄道網を高く評価。「文氏が訪朝する場合、われわれの交通に不備が多く、不便をおかけするのでは」と語っており、自ら交通施策の不備を認めており、韓国の経済援助に期待する発言とも受け取れた。

北朝鮮西部の開城〜新義州間を高速鉄道に耐えられるよう再整備するだけでざっと日本円で2兆円はかかる試算されており、全体の交通網整備となると膨大な経費がかかる。

北朝鮮が国際社会との融和姿勢をいつまで維持できるかのリスクが伴うだけにシベリア鉄道半島縦断の経済効果も全く不透明だ。

一方、半島縦断事業にはロシアの出方もいまのところ至極あいまいだ。プーチン大統領は先の会談で具体化の道筋を探ったとみられるが「朝

鮮半島には今後も相応の貢献をした」と述べるにとどまっている。

この文大統領の構想に日本の見方は厳しい。「南北会談の成果が明確に出ないうちにロシアを介在させてのシベリア鉄道の半島縦断構想はあまりにも現実離れしている。日本への経済協力も伴うものだろうが突飛すぎる」(経済評論家)というのうなずける。

しかし、この構想に呼応するように南北の鉄道連結について協議する分科会がすでにスタートしている。分科会は軍事境界線がある板門店の「平和の家」で開催、北朝鮮側区間の現地共同調査を7月末着手することである。

高水準でかつ鉄道の近代化を進めることや着工式の開催では一致した本格的事業開始は対北制裁の緩和が前提になるため不明だ。

南北は4月の首脳会談でソウル北方の京義線と日本海側の東海線の連結や近代化への協力では合意、文大統領の構想に合わせたような態勢で7月24日から京義線の開城〜新義州間の調査に着手、続いて東海線の調査にも取り組むという。

7月中旬から連結区間の点検も平行して行い、駅舎周辺や信号などの整備も行う。

韓国側は「準備や調査が大部分で制裁違反の問題はない」としているが、北朝鮮側とは工程表の確定をめぐる意見の相違があったという。

これに対して韓国サイドでも慎重な意見がみられる。「文大統領が南北会談を成功させ、ノーベル賞候補にも挙がっているいま、少し調子に乗り過ぎている。シベリア鉄道の半島縦断構想は以前から文氏が抱いていたものだが、そう簡単にコトは運ばないことは本人も承知の上だ。

“ユーラシア大陸の共同繁栄を促進する道になる”としているものの、課題だらけだ」(趙未生・韓国の経済アナリスト)という。

日本の関与は時期尚早の声も

文氏のシベリア鉄道半島構想は日本としては東アジア共存共栄のために賛同したいが、日本とロシアは北方領土問題を抱えて、いまだに平和

条約が締結されていない。

逆に北方四島には滑走路や軍事施設の建設が進んでる。

一方、韓国とは慰安婦像問題や徴用工像問題、竹島問題が横たわっており、北朝鮮とは拉致問題が未解決のままである。

いまのところ朝鮮半島のシベリア鉄道縦断どころではないかもしれない。

